

算数科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- ・これまで、第4学年の平均正答率はどの観点も目標値を上回っていたが、今回は知識・技能において下回った。ほぼ同程度あるため、今後の推移を見守りたい。このことは、第3学年までの指導において学習内容は定着していると考ええる。
- ・今年度は、これまで第6学年で下回っていた平均正答率が「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点で上回り、教科の平均正答率も昨年度を上回った。
- ・知識・技能の習得に重点をおき、習熟度別少人数指導を行っている効果が徐々に表れたと考える。
- ・第5学年の知識・技能の平均正答率が低位となり、それが主体的に学習に取り組む態度の涵養に影響している。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・文章問題の理解が難しく、加法・減法の区別がついていない児童が多い。	・量感をつかむのに時間がかかる。 ・L、dLのひき算の計算で混乱する傾向がある。他の単位でも同様の傾向がある。	・問題文をよく読まずに問題解決をする児童が多く、意図を十分な把握することができず、自己解決に至らない児童がいた。 ・四則演算の技能が定着していない。	・時の経過とともに、既習の学習内容を忘れてしまう傾向がある。 ・わり算の筆算やグラフや表の読み取りなど、基礎的な学習につまずきが見られる。	・基礎の定着にも課題はあるが、応用問題になるとケアレスミスや凡ミスが目立つ。文章問題になると立式が難しい。	・小数の計算・速さ・平均・百分率が十分に身に付いていない。文章問題の立式・記述による説明が難しい。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・教科書の徹底活用 ・問題文をよく読み、キーワードとなる言葉を正しく理解させるようにする。 ・飽きないように工夫しながら、繰り返し知識の積み重ねに取り組む。	・具体物を多く用い、児童が実際に操作する機会を増やし理解につなげる。 ・10の合成分解や繰り下がりの計算などをプリントやフラッシュカードを活用して授業の最初に繰り返し復習をして定着を図る。	・教科書の徹底活用 ・絵や図を用いることで、計算方法へ理解を深めさせる。 ・計算の手順や順番を繰り返し確認できるようにする。また、基礎的な問題に繰り返し取り組み、確実に解けるようにする。	・小数のかける数やわる数が整数である場合の小数の掛かけ算およびわり算の計算を繰り返し行い、計算の能力を高める。 ・ドリルパークやタブレットドリルを活用して表や式、折れ線グラフを用いて、伴って変わる二つの数量の変化様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりする機会を増やす。	・教科書の徹底活用 ・前時の復習の時間を取ってから授業をスタートするように計画を立てて行う。 ・習熟のために、問題を多く解かせる時間を設定する。	・教科書の徹底活用 ・導入部分で既習事項の復習を行い、授業で活用できるようにする。 ・小数の加減乗除、筆算などの習熟は、毎日の授業や朝学習などを利用し、問題をたくさん解く時間を設定する。
思考・判断・表現	・おはじきやブロックなどの反具体物や図を用いて、数量の関係を捉えて、どの場面でも同じように加法や減法が用いられるようにする。	・計算方法などの思考を図や式に表せるように、ノート指導に取り組む。 ・授業の中で問題作りに取り組む。既習事項を用いて自分で解決の方法（図を使うなど）を考える力を身に付けるようにする。	・既習事項と関連付けて考えさせ、見通しをもって図や表から立式させる。 ・具体物や半具体物を操作することで、解決の手立てを考えさせるようにする。	・話し合いの機会を設けて、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察させ、規則性があるかどうか、ある場合にはどんな規則性があるかを明らかにさせる。	・ペア学習やグループ学習を取り入れて、自分の考えを説明したり、相手の言っている意味を解釈したりする時間を確保し、説明することへの抵抗感をなくしていく。	・ペア・グループ学習などで、自分の考えを説明したり、相手の考えを解釈したりする時間を設定する。 ・自分の考えを説明する際には、図・式・言葉を用いる習慣を付け、分かりやすい説明ができるように促していく。
主体的に学習に取り組む態度	・具体物や図などを活用して、問題を解決したりその結果を確かめたりする活動を経験させることで、自ら算数を学ぶ楽しさを実感させるようにする。	・ペア学習を取り入れて自分の考えや、友達の良さを交流し合うことを通して主体的な学習態度を身に付けさせる。	・時計や巻き尺などの具体物を使った指導を取り入れることで、興味や関心を高める。 ・ペア学習や小グループでの意見交換や、考えを伝える学習を行い、自信を付けさせて発表できるようにする。	・既習事項と関連付けて指導することで、これまでの知識を活用すれば課題解決ができるという見通しをもたせ、主体性をたかめる。	・授業の導入場面ではどの児童にも答えられるような問題から入って児童の意欲を引き出し、児童からのアイディアを生かした授業展開をしていく。	・自分の考えを書けるところまで書くことを習慣化する。机間指導で励ましの声をかけたり、ノートで励ましのコメントを書いたりして、意欲付けを行う。 ・ペア学習などで考えを伝え合い、自信を付けさせて発表できるようにする。

※太枠内は、特に重視する内容